

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) キョウリンダイガク	フリガナ) ソウゴウセイサイクガクブ	フリガナ) ハンダゼミナール
杏林大学	総合政策学部	半田ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) パンダパーマ	フリガナ) ヤマダナヲ	4 人	無	無
パンダパーマ	山田菜生			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

大学内で行ったアンケート

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)

加速する免許離れ

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

近年、最近のニュースから「若者の～離れ」という言葉が流行しており代表として読書離れ、雑誌離れやテレビ離れなどが挙げられる。その中でも私たちは車離れに重点を置いた。これは要約すると若者が車自体に興味を示さないことを表す。だがこのグループで話し合ったところ、周囲では車離れではなく、もはや免許すら取得していないという免許離れの影響もまた多いことが判明した。また、教習所に通いたいが行く機会を失った若者に私たちがどのようなお手伝いを施せば教習所へ行く若者が増加するかを考案した。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

国土交通白書によると、20代では1991年に74.2%であった運転免許証の保有率が2011年には63.5%まで減少している。かつてのバブル期では高校卒業後、もしくは大学の在学中に普通自動車の免許を取得するという風潮が必然的に強かった。しかし、現代の20代の若者では運転免許証と自動車は所持済みだが日常で運転する機会がないペーパードライバーを通り越

し、運転免許証を持っていないもしくは取得する機会を作らない人もまた増加している。実際、特に東京都においてその傾向は顕著に現れています。また、わが校の学生 100 人にアンケートをとったところ 69 人の学生が免許を持っていないのが現状であった。主な理由としてまとまった時間がとれないことや教習所に行くことが憂鬱であることが挙げられた。また、教習所の仮免許取得までの簡単な流れとしては入校手続きを終えた後、視力や聴力を測るなどの個人の能力を総合的に診断する運転適性検査を行う。そして、自動車運転についての基本的な心得や、マナー、信号や標識の意味などを安心安全で通行をするための基礎知識を学習する。これは、教習所や自動車学校から配布される教本を使用した授業であり学科と呼ばれる。また同時に、自動車での操作や走行など、実際の道路で運転するための 20 項目以上の基礎的な実技を学びます。これらは、教官と一緒にのって練習し実技と呼ばれる。そして学科と実技の試験で合格のハンコの押印後に、仮免許を交付してもらったための終了検定を受ける。

3. 研究テーマの課題

免許を持っていない学生になぜ教習所へ行かないのかという問いかけを行った。結果として最多の回答はまとまった時間が取れないということだ。これは、教習所への往復、かつ授業時間を含めると約半日ほどの時間を必要とする。午前中のみでは時間が足りず、隙間時間や疲れを伴った学校終わりでは教習所へは行きづらくなることは納得できうるものだ。結果的に時間が足りず教習所に通うことができなくなったと考えた。また、3 番目にあった理由で教習所に行くことが憂鬱であると考えた。これらの課題を解決したいと考えた。そして、現代の若者へ気軽に教習所の利用者を増やせるかを課題とした。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

学科は基本的に教習所に通い授業を受けてもらうものだ。だが、教本さえ事前に手にさえていけば学科の授業は自宅での学習も可能ではないかと思うのがこのグループの意見である。だが教本のみでの学習は厳しいと予測されるため、授業動画をインターネットに掲載し教習所で行われる授業をインターネット環境があれば、自宅でも学科の授業を受けられることを提案したい。まず以前より存在する、教習所にきて学科の授業を受けてもらう通常のコースとは別に学科はインターネットで受けもらえるコースを新しく創出したいのが私たちの提案だ。新コース設立から実際の運用方法として、事前にある教習所のホームページよりインターネットで学習する人限定のバナーを別途設けたい。次に、教習所に在籍している講師の方に本来行っている授業時間と同じくらいの授業動画を撮影していただく。次にその動画を新コースのサイトに掲載、履修者が閲覧、勉強してもらう。この新コースは教習所に入校してから仮免許の取得まで、そして学科の授業は自宅での学習をしてもらうが、実技と試験は実際に教習所に通ってもらうことを前提とする。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

杏林大学の学生男女 100 人を対象としたアンケート調査をおこなった。2 題質問し 1 問目はどのくらいの人数が運転免許証を持っているのかという質問である。これに対し、はいに 31 人、いいえに 69 人との結果になった。2 問目になぜ教習所に通わないのかという質問だ。最多で時間がかかるに 33 人、次に費用がかかるに 22 人、3 番目に 18 人との結果が出た。

6. 結果や今後の取り組み

この新コース設立により、日常生活での時間が大幅に短縮された。結果的に、憂鬱と思っていた学生が減少し教習所に通う学生が増加する。そして、加速している免許離れを少しでも食い止めることができればと考える。今後の取り組みとしてはこの新コースの実現可能性、そしてこれを設立した場合で前よりある履修者との人数の流動性について深く研究していきたい。また、これは前例のないものであり（Google ,App Store 調べ）、なぜ今まで存在しなかったことについても探求したい。

7. 参考文献

Weblio 辞書

《<https://www.weblio.jp/content/%E8%BB%8A%E9%9B%A2%E3%82%8C>》

全日本指定自動車教習所協会連合会

《<http://www.zensiren.or.jp/process/process.html>》

運転免許教習所ガイド

《<http://www.driver.jp/>》

インターネット自動車教習所

《<http://menkyo119.com/>》

国土交通白書 2013

《<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h24/hakusho/h25/>》

ソニー損保「2018年 新成人のカーライフ意識調査」

《https://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2018/01/20180104_01.html》

毎日コムネットの合宿免許

《<https://www.gasyukumenkyo.com/>》

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**